

所属・資格 体育学科・准教授

申請者氏名 金野 潤

| | | |
|--------------------------------|---|--|
| 研究課題 | | I J F ルール改定による日本柔道に与える影響 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | 4年に一度の五輪の際にのみルールが変更していく柔道競技ではあるが、ルールの運用に関しては、大会毎に適用方法が審議されながら審判に伝えられる。反則ポイントである「指導」ひとつの適用方法で勝敗が分かれる。また、立技と寝技の境目がなくなることで、技術体系にも大きな影響を与えてきているのが現状である。そこで、新ルール適用により試合内容がどう変化したのかを分析する。 |
| | 研究の結果 | 一本勝が有意に増加している。「技あり合わせて一本」が復活したことによるものだと考える。また、「技あり」がポイントとして定義化が進んだことがあげられる。ポイント獲得の技についてはルール変更前と変化は見られなかった。昨年までは日本選手がポイント獲得に多く使用された「大内刈」は数値として減少し、他の技術と使用頻度の差は減少した。これは外国人選手の日本人対策が進んでいることが考えられる。 |
| | 研究の考察・反省 | ルールの解釈が変化していくことで勝利するための戦略も変化してくる。2017年からの解釈変更も数度行われ、それらに早期に順応することが日本選手には求められている。今回の研究結果は「一本」とれる技術だけでなく、意図して「技あり」をとれる戦略が必要なことを示唆している。ただし、ルール解釈の変更は今後も行われることが予想され、それにより戦略の変更ができるよう継続的研究が必要であると考えられる。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 | 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | ※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 上記の研究結果は来年度、学会発表、論文投稿を計画している。 |